

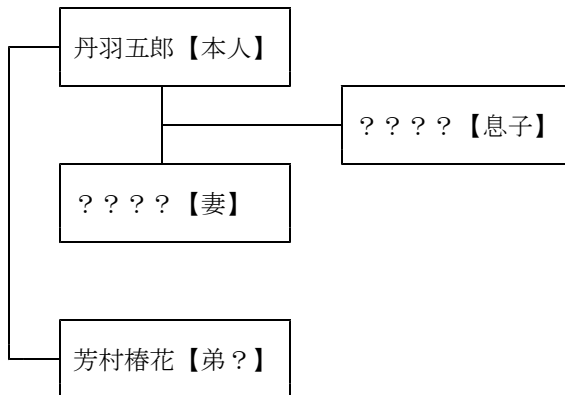
1. ニュースレターに書いた「伏線」データ
 - (1) 奥付の発行者の「住所・氏名」
 - (2) 本文中の「イソツプ唱歌」

2. ニュースレターには書かなかったこと
 - (1) 奥付の上部には、以下の記載事項が存在する。

丹羽後之助編 少年読本 世界の猛獣 ちきに出ます
 - (2) 奥付の裏の広告には、以下の記載事項が存在する。

丹羽後之助撰 イソツプ唱歌 定価金八銭 郵税金貳銭 菊判八頁
美装全一冊

3. 序文「子供の夢に就て」から推定される翻訳者の家族関係



4. 仮説

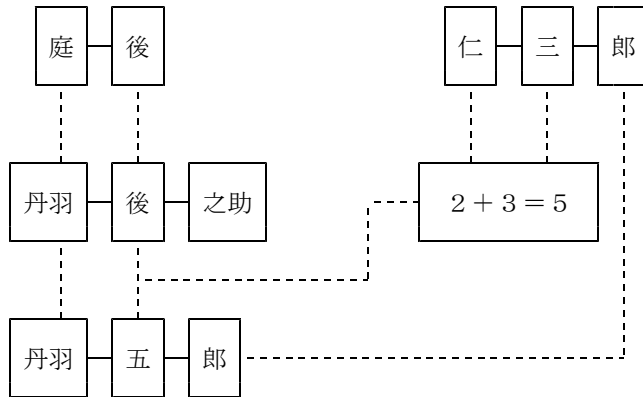
丹羽五郎とは、本書の発行者である靱山仁三郎のペンネームである。

5. 仮説の検討と、その弱点

- (1) 靱山仁三郎の旧姓は「吉村」である。（←と、辞典にある）
 - (2) 靱山仁三郎には「吉村良」という弟がいる。（←これも辞典にある）
 - (3) 吉村良の号のひとつに「椿花」がある。（←これも辞典にある）
 - * 「芳村」と「吉村」は、一字違うが発音は同一。
 - (4) 靱山仁三郎の長男は「靱山泰一」である。（←日本紳士録第9版による）
 - (5) 靱山泰一は明治37年生まれであり、明治44年には7歳になる。
 - (6) 靱山仁三郎の住所は丸善本店に近い。（どちらも日本橋近辺の筈）
 - (7) 丹羽後之助は、実は靱山仁三郎である。（←と、国会図書館の目録にある）
 - (8) 丹羽後之助と丹羽五郎は同一人物である。（←これは全くの推測）
- というわけで、肝心の（8）が推測にすぎないところが弱点だが、はたして…。

6. ペンネームの由来についての想像

靱山（吉村）仁三郎は「江戸庵庭後（えどあん・ていご）」という号を用いていたことがあり、この「庭後（ていご）」と本名の「仁三郎（にさぶろう）」を組み合わせてペンネームとしたのではないかと想像される。なお、「丹羽後之助」はその中間段階であったと想像される。



7. 子供の夢とその原著との予期せぬ（あるいは計画的な？）共通点

- (1) ある特定の子供に語られた物語である。
- (2) 著者が33歳の時にペンネームを用いて出版されている。
- (3) 初版の印刷紙葉が異版に流用されている。（これは推定）

8. 関係者4名の生没年と、明治44(1911)年4月当時の年齢

氏名	続柄	生年	没年	明治44年4月
靱山仁三郎	本人	明治11(1878).01.10	昭和33(1958).04.28	33歳
靱山せん	妻	明治17(1884) ?	大正11(1922).03.27	27歳 ?
吉村良	弟	明治20(1887).01.15	昭和21(1946).07.05	24歳
靱山泰一	長男	明治37(1904).01	/	7歳

9. ある『子供の夢』の読者の夢

丹羽五郎氏こと靱山仁三郎氏がアリスの物語を物語ったところの靱山泰一氏は、1996年現在、鎌倉市に在住とのことである。ということは、もしかすれば、氏に直接インタビューし、当時の話を伺うことができるかもしれない。もしそうであれば、実在の Alice の証言が Cornhill Magazine に Alice's Recollections of ... として掲載されたように、たとえば「朝日新聞」みたいなところ（それ以外でも勿

論OK)で取材する、ということもよいのではなかろうか？ ルイス・キャロル没後百年に合わせるということであれば、あながち夢物語でもないかもしれない…。

ただし、次のような問題がある。

(1) 現在93歳になられるはずであり、健康上の心配がある。

(2) 家柄の面から、取材拒否される可能性もある。

*少し調べたところでは、靱山仁三郎氏の実家である「吉村」家は江戸時代の定飛脚問屋（ということは、当時の郵便・運輸関係のかなめ）であり、現在の「日本通運」の直接の先祖(?)となっているらしい。特に明治時代には財界の大物であったらしい。

(3) インタビューの質問は誰が作成するか？

*つまらない質問はかえって逆効果？

(4) 取材するのは誰か？

*それ相当の学識を有する人が必要？

(5) これまでの「仮説」はすべて誤りの可能性もある。

*その場合、インタビューはすべて無駄になってしまう？

というようなことなのですが、このまま何もしないでいるのももったいないような気がします。何か良い考えはないのでしょうか？

あとは、参考資料をあげておきます。

資料1、『日本近代文学大事典』第3巻(1977) p. 361

【靱山梓月 くもみやましげつ】 明治11. 1. 10～昭和33. 4. 28 (1878～1958) 俳人、出版人。東京日本橋生れ。本名仁三郎、旧姓吉村、旧号江戸庵庭後。家は代々飛脚問屋兼両替屋。日本橋の海産物問屋靱山家に入婿。慶応義塾理財科卒。早くより南新二、其角堂機一に俳諧を学び、のち高浜虚子を知り、正岡子規に就いた。明治38年、虚子より俳書堂を譲り受け、靱山書店として多くの俳書や、森鷗外、夏目漱石、永井荷風、谷崎潤一郎、久保田万太郎、水上瀧太郎らの文芸書、いわゆる胡蝶本を刊行したほか、「三田文学」も発行した。かたわら三田俳句会を指導、大正5年、荷風とともに文芸雑誌「文明」を発刊、小品、随筆を載せた。翌6年「俳諧雑誌」を創刊。のち時事新報常務取締役になった。句風は雅致に富み、気品が高い。句集に『江戸庵句集』(大5.2 靱山書店) 『浅草川』(昭6) 『冬うぐひす』(昭12.6 靱山書店) 『冬扇』(昭29)、小品集『遅日』(大2.2 靱山書店)、句文集『鎌倉日記・伊香保日記』(昭3)、連句集『古反故』(昭27) など。(坂上博一)

資料2-1、『俳諧人名辞典』(1960) p. 585

【梓月 くしげつ】 本名、靱山仁三郎。明治11年(1878)1月10日東京に生まれた。もと吉村氏、のち靱山氏の女婿となった。慶大卒。初め旧派の俳諧を学び、のち虚子・子規を知り、虚子から俳書堂を譲りうけてこれを経営し、また『俳諧雑誌』を発行し、俳句及び連句を善くし、茶道を愛好してその方には宗仁の号があった。句文集に『遅

日』『江戸庵句集』『浅草川』『冬鶯』『冬扇』『続冬扇』『古反故』『連句入門』『鎌倉日記・伊香保日記』その他がある。昭和33年(1958)4月28日没した。年80。

因みに、室梓雪また句を善くしたが、早く大正11年3月27日に38歳で没した。『梓雪句集』がある。

資料2-2. 『俳諧人名辞典』(1960) p. 586

【梨葉 くりよう】 本名、上川井良。旧姓、吉村氏。初号、椿花。南松庵・友善堂と号した。明治20年(1887)1月15日東京に生まれた。靱山梓月の実弟。家兄の感化で幼少から俳句を愛好し、慶大在学中は三田俳句会の牛耳を執り、梓月の後をうけて俳書堂を経営し、『俳諧雑誌』ついで『愛吟』を刊行し、家集『梨葉句集』『愛吟集』、諸家とともに乙字編の『故人春夏秋冬』を輪講した『古俳句講義』などの編著がある。昭和21年(1946)7月5日没した。年60。

資料3-1. 『俳文学大辞典』(1995) p. 910

【靱山梓月 くもみやましげつ】 俳人。明治11 (1878). 1. 10～昭和33 (1958). 4. 28、80歳。東京生れ。本名仁三郎。旧号、江戸庵庭後。晩年は梓月宗仁と号した。江戸時代の飛脚・回船問屋元締の吉村家に生れ、日本橋小舟町の回船問屋靱山家に入婿。慶応義塾理財科卒。明治38年、俳書堂を高浜虚子から譲り受け、靱山書店を経営。大正6年 (1917)、『俳諧雑誌』を創刊。俳書のほか文芸書も刊行したのち、俳書堂は実弟上川井梨葉に譲り、昭和3年、時事新報社常務取締役となる。俳書堂は同18年、廃業。俳句は14歳ごろから布川又照庵・田辺機一に学ぶ。永井荷風作「雨瀟々」の主人公は梓月がモデルといわれる。句集『遅日』(大2)『江戸庵句集』(大5)『浅草川』(昭6)『冬鶯』(昭12)『冬扇』(昭29)『続冬扇』(昭30)ほか。 [成瀬櫻桃子]

資料3-2. 『俳文学大辞典』(1995) p. 172

【上川井梨葉 くかみかわりよう】 俳人。明治20(1887). 1. 15～昭和21(1946). 7. 5、60歳。東京生れ。本名、良。別号、椿花・友善堂・南松庵など。慶応義塾理財科卒。江戸時代の飛脚・回船問屋元締の吉村家に生れ、上川井家を継ぐ。実兄靱山梓月の影響で年少時から作句。大正14年(1925)、俳書堂を梓月から譲り受け、同15年、第二次『俳諧雑誌』を刊行。昭和5年、『俳諧雑誌』を終刊し、『愛吟』を創刊主宰、同16年、『円画』に引き継ぐ。句集『梨葉句集』(4冊、昭5～18)。 [成瀬櫻桃子]

資料4. 『日本紳士録』第9版 (1931) p. モ-14

靱山仁三郎 時事新報社(株)常務取締役兼営業局長、靱山書店(株)監査役
東京府在籍

男 泰一 明三七、一生

男 虎之助 明三八、三生

君は東京府人吉村甚兵衛の四男にして同佐平の弟靱山半三郎の養兄なり明治十一年一月を以て生れ後先代靱山半三郎の養子となり大正八年分れて一家を創立す明治三十四年慶応義塾を卒業し現時事新報社常務取締役兼営業局長にして又前記会社の重役たり(東京、麴町、丸の内三ノ二電丸の内七三一)

資料5. 『著作権台帳』第23版 (1995) p. 1530

靱山・梓月 (もみやま・しげつ)

生: 1878 (明11) 1. 10

没: 1958 (昭33) 4. 28

本: 靱山・仁三郎 (もみやま・にさぶろう)

継: 靱山・泰一 (長男)

住: 248 神奈川県鎌倉市扇ガ谷1-12-6

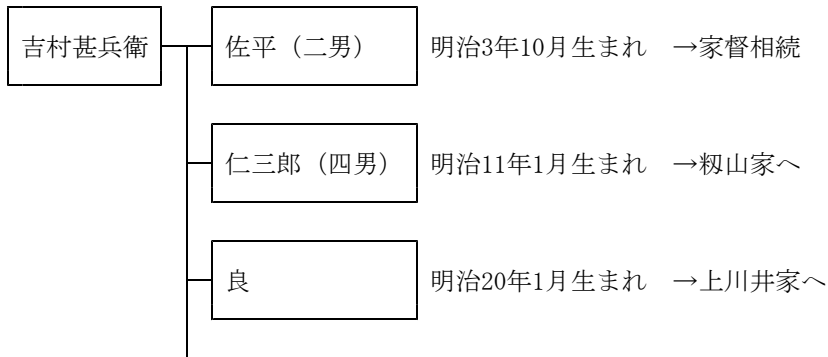
電: 0467-22-0310

資料6. 『国立国会図書館蔵書目録』明治期第5編 芸術・言語 (1994) p. 129

イソップ唱歌 靱山仁三郎著 再版 東京 靱山書店 明44. 4 8p 23cm

(特72-76) (JP41-22385)

吉村家 家系略図



靱山家 家系略図

